



# 兵庫県におけるアライグマの現状

## Distribution and management status of raccoons in Hyogo Prefecture

兵庫県森林動物研究センター 研究部 編集



兵庫県森林動物研究センター  
兵庫 ワイルドライフモノグラフ 1号

Wildlife Management Research Center, Hyogo  
Wildlife Monograph of Hyogo, No.1







(1) ペットフードを食べにきたアライグマ



(2) 人家で子育てを行うアライグマ



(3) 捕獲された成獣



(4) 目に奇形が見られた幼獣



(5) 推定2ヶ月齢のメスの幼獣  
(6月有害捕獲)



(6) 推定4ヶ月齢のオスの幼獣  
(8月交通事故)

口絵1 兵庫県内で撮影・捕獲されたアライグマ





(1) イチゴ栽培ハウスへの侵入口



(2) スイカへの食害



(3) 屋根裏への侵入口

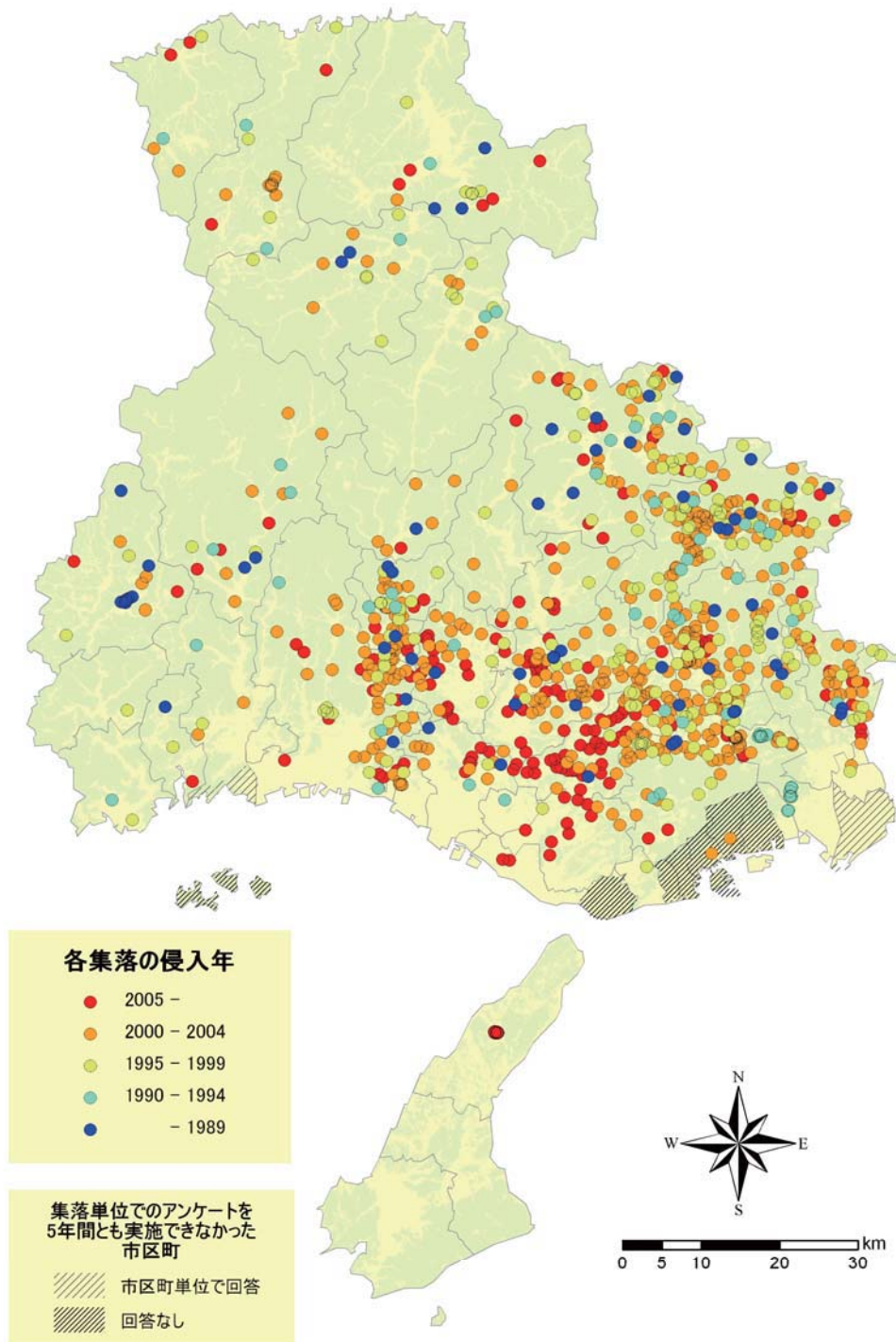


(4) にわとりへの被害



(5) アライグマ用電気柵：乗り越える動物に対して、通電性のあるトタンを利用しその上に電気柵のワイヤーを張るタイプ。

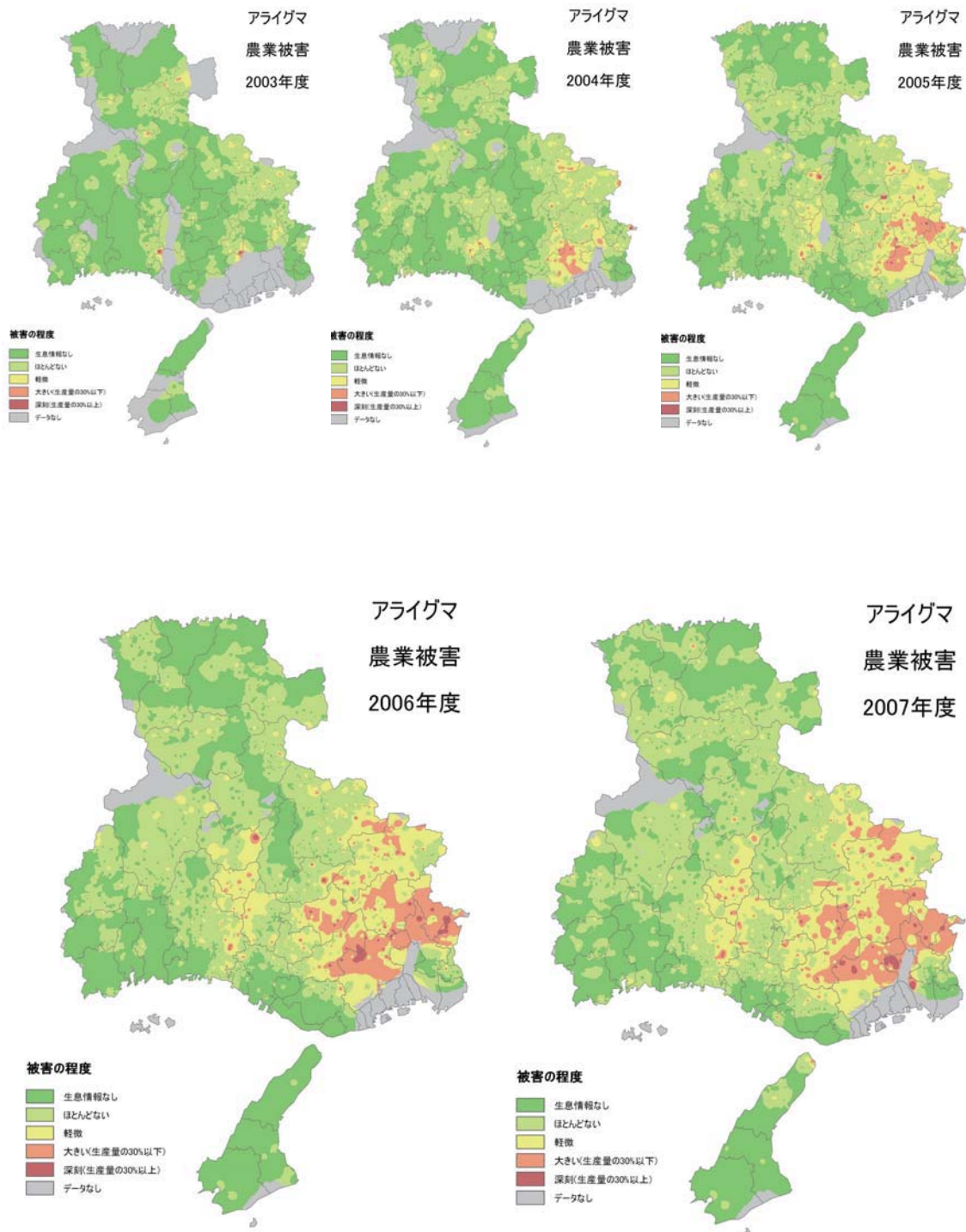
口絵 2 兵庫県内におけるアライグマの被害とアライグマ対策用防護柵



口絵3 兵庫県内におけるアライグマの侵入時期

2003年から2007年に行った農会アンケート調査より、各農会の回答を集計して作成。





口絵4 アライグマの農業被害の拡大と深刻化の変遷

農会アンケート調査より、各農会の回答から内挿して作成。5年間で急激に被害が拡大、深刻化してきた（第1章参照）。

## 刊行にあたって

1990年代から兵庫県において顕在化したアライグマは、2000年代に入ってもはや放置できないほど急速にその個体数と分布域を拡大している。本書は、2008年度末までに得られた最新の情報をもとに、兵庫県におけるアライグマ防除に関わる研究成果を纏めたものである。

本書の第1章と第2章に記述された「分布、被害とその対策の状況」、「捕獲効果のシミュレーション予測」は、兵庫県内の農会長、狩猟者、市町の行政担当者などのご協力を得て、農会アンケート調査や捕獲個体調査を実施することにより明らかにすることができた。また第3章の「捕獲個体の分析」は、兵庫県で実施された有害捕獲個体や交通事故死の個体を回収して分析したものである。ご協力いただいた皆様に心より敬意を表す。さらに第4章から第6章までの「アライグマに関わる感染症」の記述は、山口大学をはじめとする感染症研究チームの調査研究に基づくものであり、関係者の皆様に御礼申し上げる。最後の第7章は「国内・国外の事例」に関する報告であり、兵庫県における今後のアライグマ対策に有益な示唆を与えるものである。

本来日本の固有種でないアライグマが自然生態系に侵入することによって生ずる問題は、①農作物への被害、②人や家畜(ペットを含む)との共通感染症を蔓延させる恐れ、③日本固有の生物多様性への脅威、の3点である。

アライグマの原産地である北米大陸では狩猟獣として一定の価値があるが、近年は上記の3点の問題点が深刻化したため有害駆除を積極的におこなっている。また日本と同様にアライグマが移入された国や地域では、駆除または根絶すべき外来種として対策が進められている。1960年代に野生化が始まった日本では、その後のペットブームの影響もあって各地で野生化がおこり、2007年には46都道府県で生息が確認されており、農作物への被害だけでなく、捕食による希少種の絶滅や、人畜共通感染症の流行を引き起こす危険性が懸念されている。

本書が刊行される2008年度末は、新興・再興感染症のパンデミック(世界大流行)の危険性がますます高まっている。世界保健機関(WHO)の定義によると、新興感染症は「かつては知られておらず、新しく認識されるようになった感染症」であり、再興感染症は「近年再び増加してきたもの、あるいは将来的に再び問題となる可能性がある感染症」である。日本各地でその生息数と分布域を拡大し続けているアライグマが新興・再興感染症のパンデミックと関わることはないよう、対策を進めることが求められている。本書がそうした対策を進める上で貢献することができるならば、執筆者一同にとって至上の喜びである。

2009年3月

兵庫県森林動物研究センター  
所長 林 良博

## 目 次

第 1 章	分布、被害とその対策の状況	1
	坂田宏志・岸本康誉（兵庫県森林動物研究センター）	
第 2 章	生息頭数変化に及ぼす捕獲効果のシミュレーション	11
	坂田宏志（兵庫県森林動物研究センター）	
第 3 章	捕獲個体の分析～年齢・繁殖・食性～	19
	横山真弓・木下裕美子*1（兵庫県森林動物研究センター）	
第 4 章	消化管寄生虫の寄生状況	29
	佐藤 宏（山口大学 農学部獣医寄生虫学教室）	
BOX1	野生アライグマにおけるアライグマ蛔虫症の危険	39
第 5 章	人畜共通感染症レプトスピラ症の感染状況	46
	奥田 優（山口大学 農学部獣医内科学教室）	
BOX2	レプトスピラをはじめとする細菌類感染の予防方法	53
BOX3	ウイルス感染の予防方法	54
第 6 章	イヌジステンパーウイルスおよび日本脳炎の抗体保有状況と課題	55
	前田 健（山口大学 農学部獣医微生物学教室）	
第 7 章	国内・国外の事例について	66
	鮫島弘光*2（兵庫県立大学）・坂田宏志（兵庫県森林動物研究センター）	
BOX4	イギリスにおけるヌートリアの根絶成功の経緯	77
附録		
	1. 兵庫県アライグマ防除指針	
	2. アライグマの被害防止パンフレット	

1 現所属：財団法人知床財団

2 現所属：京都大学生態学研究センター